



セミナー インフォメーション

第 18 回定例研修 『知財技能士のためのビジネス・デザイン』～知財を核とした戦略立案～

動画配信期間：2015 年 7 月 15 日～2016 年 7 月 14 日

知的財産管理技能士会の研修委員会では、知財技能士が資格取得後も継続して知識・技能を高めることを目的として、研修という形で定期的に学習の機会を提供しています。知財現場での今日的な課題からテーマを厳選し、経験豊富な第一線で活躍している実務家を講師として招聘し、実施しています。今年度はそれらのテーマの中でも、知財技能士には欠かせないビジネス・スキルの向上に関連するテーマを目的とした研修を実施します。

今回は、2015 年 7 月 15 日より配信中の第 18 回定例研修についてご紹介します。

第 18 回定例研修 <収録日：2015 年 6 月 17 日>

『知財技能士のためのビジネス・デザイン～知財を核とした戦略立案～』

【講師】森 祐治氏（株式会社電通コンサルティング 取締役・シニアディレクター／デジタルハリウッド大学大学院 専任教授）

（略歴）国際基督教大学（ICU）教養学部卒業後、日本電信電話を経て ICU 大学院博士前期課程修了。同大の助手を経て、Golden Gate University, Graduate School of Technology Management(MBA)及び New York University, Steinhardt School (Ph.D)へ奨学生として留学。早稲田大学大学院国際情報通信研究科博士後期課程単位取得修了。

滞在中にベンチャー創業・売却を経験。日米のマイクロソフトを経て、マッキンゼー・アンド・カンパニーへ。その後、コンテンツ投資・プロデュース、国際展開支援を行うシンクタンクの代表に転ずる。設立したファンドの償還に伴い、電通コンサルティングに参加。

コミュニケーション、イノベーション研究、認知社会心理学、コンテンツ産業論など学術関連の研究・教育、発表多数。コンテンツ学会理事、デジタルハリウッド大学大学院専任教授、慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科、青山学院大学大学院国際マネジメント研究科の講師も務める。知的財産やコンテンツ、IT サービスなどの政府関連研究会員などを歴任。



<研修のねらい（講師より）>

知的財産が経営戦略上の重要な資産であるとの認識の下で知財業務に邁進していますが、経営や事業とは何か、また経営や事業における知財の位置付けとはどのようなものであるかは、知財のエキスパートにとっても意外と理解されていないものです。

本定例研修では、既存の事業領域に捉われずに、自社資源を基にして事業を再設計するプロセスである「ビジネス・デザイン」を学習することにより、俯瞰的に事業を理解する視点を持てるようになることをねらいとします。

<こんな方におススメ>

- 特許のみならずコンテンツやブランドなど知財の業務に携わる知財技能士の方々
- 知財業務に携わっていないが、知財を活用した経営に関心がある知財技能士の方々

(講義プログラム：約 180 分)	
1. ビジネス・デザインとは 2. ビジネス・デザインの手法	3. 知財とビジネス・デザイン 4. ケース・スタディ 5. トピックス・トーク

1. プログラムハイライト

(1) 高い目線を持つための考え方を学ぶ

どのような事業領域に、どのような知財を活用すべきか、ない場合にはどこから知財を持ってくるのかが、経営では重要なポイントとなりますが、経営者に確固たる視点が必ずしもあるとは言えません。

そこで、担当者として日々の業務に取り組んでいる皆さんに、経営を「自分事」として捉えていただき、高い目線で鳥瞰的に業務を理解しなおし、ひいては社会との繋がりまで認識することで、経営と直結しているという実感を持って業務に取り組んでいただけるようになることを本研修のねらいとしています。

(2) オペレーション・エクセレンスからビジネス・デザインへ

森先生は「事業計画はどのように策定されていますか」と問いかけます。

「前年比〇〇%の成長」を達成するための計画は、自業務が精緻化された結果である一方、全く新しいものが現れない状況が前提となっています。

このように、環境や市場構造の変化があまりなく、一定の条件下でビジネス内部の精度を高め、その収益性を高める業務サイクルは「オペレーション・エクセレンス」と位置付けられます。

一方、環境や市場構造が大きく変化し、自社

の位置付けを決めなければ生き残れない状況にあっては、ビジネス全体の在り方そのものを検証し、改善を図る、より大きな業務サイクルが求められます。これが「ビジネス・デザイン」です。経営者は新しい方向性を決め、新しいコト、モノやイノベーションを作り出し、組織にフィットさせていくことが求められます。

「デザイン」といっても、工業デザインやグラフィックデザインの類ではなく、現在あるものを組み合わせて価値を創造したり、ビジネスそのものを組み替えて異なる価値を生み出す「編集」に近い考え方であることが理解できます。



(3) ゴールを決めてギャップを埋める

ビジネス・デザインの手法の一つ「フューチャーセッション」では、組織内外を問わず、できるだけ多様な背景、年齢、性別の人々、ときには異物も入れて、多様な視野でゴールを描きます。あるべき姿（ゴール）が決まれば、現状

と不連続なものであっても、ギャップを埋める方法を優先して検討することも可能です。

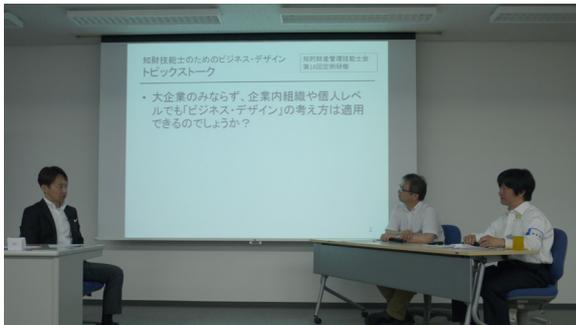
(4) アイデアを形にするための知財

ビジネス・デザインにおける知財の位置付け、そして、ビジネス・デザインにおける知財の活用の解説へと講義は進みます。

「このアイデアを知財権で囲い込むことができるか？」ではなく、「ここにある知財を使い切ったら、どんなことまでできるだろう？」という発想の転換が重要です。そして「ワクワクする」や「なんだかスゴイ」といった期待や経験を提供することが重要です。

(5) 知財が活用されたビジネス事例から学ぶ

ケース・スタディでは、知財が活用されたビジネス事例について、ビジネス・デザインの観点から解説するもので、米国 MPEG LA のパテントプール、コンテンツのマルチ・シューティング、コンテンツ製作委員会をご紹介します。



(6) 対話形式で講義全体を振り返る

「中小企業のビジネス・デザイン」「ビジネス・デザインに取り組むために、はじめにすること」などのトピックについて、森先生と研修委員との対話形式で講義を振り返り、講義プログラムを終えます。

2. より深くビジネス・デザインを学ぶための参考文献・参考情報

(1) “The Design of Business: Why Design Thinking Is the Next Competitive Advantage.”
Martin,R.,(2009)Harvard Business Press.

(2) 『リーンスタートアップ』

リース,E., (井口耕二訳) (2012)日経 BP 社。

(3)デザイン思考研究所

慶應義塾大学の研究会を母体とする社団法人で、スタンフォード大学 d.school のテキストなどの翻訳無償配布やガイダンス・セミナーなどを実施している (<http://designthinking.or.jp/>)。

3. 企画を担当した研修委員のコメント



「変化の激しいビジネス環境でどう考え、どう行動すればよいかのヒントがあります」

研修委員 若山 宏平 (音楽ビジネス経営、一級知財技能士 (コンテンツ)、知的財産アナリスト (コンテンツ))

社内にある知財を経営資源としていかに有効に活用していくかという問題は、知財を扱う企業にいらっしゃる方々の頭を常に悩ませる問題だと思います。特に、グローバル化が進み、ますます競争が激しくなっている昨今では、なおさらのことでしょう。

イノベティブなアイデアを生み出す環境を作るにはどのようなことに留意すべきかといった課題、生み出されたアイデアを、技術的な問題を解決して具現化し、顧客に「これはいいね！」と感じてもらえる商品やサービスとして提供し、更に商業的にも成功を収めるために、どのような取り組みをすればよいかといった課題など、知財を扱う企業にいらっしゃる方々が解決すべき課題は多いことと思います。大企業であっても中小企業であっても、企業全体に関わること

であっても個人レベルのことであっても、ビジネスの場面では、こうした課題の連続だと感じている方々もいらっしゃることでしょう。

アカデミックなお立場にもいらっしゃるながら、日頃こうした課題を顧客とともに考えていらっしゃる森先生に、講義本編、トピックス・トークを通じ、我々が知財技能士として、こうした課題についてどのように考えればよいかについての見識を披瀝していただいています。特に、講義のテーマである、自社資源を基にして（自社の強みを活かして）事業をいかに再設計

すべきかという「ビジネス・デザイン」の観点が今なぜ注目されているのか、また、この新しい観点を持つことによって我々知財技能士がどのように仕事を進めていくことができるのかについて、詳しく知ることができると思います。

すべての知財技能士に、とりわけ、変化の激しいビジネス環境でどのように、考え、行動していけばよいかについてお考えの知財技能士に、是非ご覧いただきたいと思います。

受 講 方 法

■ 定例研修の動画視聴について

知財技能士会では、全国の知財技能士がいつでもどこにいても受講できるよう、定例研修を知財技能士会ウェブサイト上で動画配信しています。研修動画はインターネット環境があれば視聴できますので、スマートフォンやタブレットなどでも視聴できます。

研修で使用する資料も同ウェブサイト上からダウンロードが可能です。

○動画視聴の対象者：知財技能士会の会員および利用登録者です。

○会員の動画視聴：知財技能士会の会員は、視聴期間内であれば、最新の定例研修4回分を無料で視聴できます。

○利用登録者の動画視聴：「会場受講」をお申込みでない利用登録者の方は、お申込みと受講料の支払いにより定例研修の動画を視聴できます。お申込みは実施回毎に行う必要があります。

< 現在視聴可能な研修（2015年9月現在） >

第15回研修 『知的財産価値評価～基礎編～』

第16回研修 『実は知財と関係が深い「マーケティングとブランドの基礎知識」』

第17回研修 『事業経営と知財戦略～知財活動の推進と知財技能士の役割～』

第18回研修 『知財技能士のためのビジネス・デザイン～知財を核とした戦略立案～』

○詳細・視聴申込：知財技能士会のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.ip-ginoushikai.org/kenshu>

（予告）第19回定例研修『知財技能士のための戦略的交渉力入門—戦術から戦略へ—』

本誌連載『知的財産権を巡る交渉セオリー』が立脚する「交渉学」を学ぶことができます。

講師：隅田 浩司氏（東京富士大学経営学部経営学科（大学院経営学研究科）教授 博士（法学））

動画配信期間：2015年10月15日～2016年10月14日